

## 生涯教育研修会報告書

学発番号 第11-045号

日時：平成23年10月14日（金）19:00～20:30

場所：京都保健衛生専門学校 視聴覚室

主題：臨床で使用されるチューブ類の知識と感染対策

講師：中嶋 崇史 先生

講師所属：京都府立医科大学付属病院 看護部

報告者：西口 晴美

所属：京都桂病院

分類：20点

全体参加人数：14人

京臨技のみ所属会員参加人数：

以下、講演内容など

臨床で使用されるカテーテルには、中心静脈カテーテルの一種で感染のリスクが最も低いCVカテーテル、引っ張りなどにより抜けてしまう可能性が低いブロービアックカテーテル、腕から挿入するPICCカテーテル、血液浄化療法の送脱血時に使用するブラッドアクセスカテーテル、心拍出量や肺動脈圧、右心室圧、右心房圧などを測定するスワングアンツカテーテルなどがある。

ドレーンには、腹腔内の非生理的な液体（滲出液、血液、膿、消化液など）を体外に排泄するための腹腔ドレーン、肝切離面や胆管空腸吻合部からの滲出液を誘導し情報を得るための肝周囲ドレーンなどがある。

医療関連感染サーベイランスは感染の発生状況を調査・集計することにより、感染症の蔓延と予防に役立てるシステムである。デバイス関連サーベイランスのひとつに、血管内留置カテーテル関連血流感染サーベイランス（CLABSI）がある。米国CDCの全米医療安全ネットワークの症例定義を用いることで、全国的な比較ができる。

CLABSIバンドル（感染対策を効果的に実施するための手法）として①適切な手指衛生、②マキシマル・バリアプリコーションの徹底、③毎日の刺入部の観察と適切な管理、④カテーテルの必要性の評価が挙げられる。

（ 報告者 西口晴美 ）